

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700549		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	三重県松阪市垣鼻町1638-52		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町提出日	令和2年10月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2470700549-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2470700549-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 9 月 18 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出支援に力を入れていきたいところであったが、コロナ禍の影響で外出できずグループホーム内で過ごすことが多くなってしまったのが残念だった。しかし、職員の催し物等で楽しんで頂けるよう努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より17年目となる事業所で、本年7月に管理者交替があった。着任時には、本来の業務引き継ぎを軌道に乗せる事や、コロナ禍での業務、イベント・行事の自粛や中止・変更への対応に現在も追われ、様々な努力を重ねている。そんな中、全職員の協力と工夫により、室内でも利用者が元気に楽しく過ごせる事を日々試行錯誤してきた。管理者がレクリエーション担当を決めて、徐々にスタイルが進行してきた途上である。管理者は、「先ず、利用者の話を聴く事。一方的に言わない。」という自身の言葉を全職員に伝えながら、事業所の「まごころ理念」を常に意識付け、実践に向けて取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まごころ理念があり、毎朝朝礼時に唱和して、職員間で意識付け・実践を行うようになっている。	5つのキーワードによる基本理念を、毎朝の申し送りで唱和し、声を出して読む事で、気を引き締めている。ユニットごとに個人月間目標を掲げ、介護現場で活かせる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	溝掃除・防災訓練など、地域の行事がある時は職員が参加し、またグループホームで行事があれば、地域の方をお誘いしている。	事業所主催の夏祭りが毎年恒例行事であるが、今年度はコロナ禍で中止となり、地域交流等も実施出来ない状態である。そんな中でも毎月発行の「まごころ新聞」は自治会への回覧が継続されている。今年は国勢調査があり管理者は、自治会との連絡を取り合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けた認知症ケアについての研修を行ったり、地域の行事に参加し、認知症についての質問に答えられるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、利用者状況や取り組み・日常の様子を報告し、他業種の方々の意見を求めている。その意見をサービス向上に活かせるように努めている。	本年度の会議は2回開催され、その後定例会通知は出されたが、コロナ禍での中止となっている。今後は「コロナ終息」となって、再開時期を待つ状態である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を行い、市の担当者にも参加して頂き、意見交換を行いながら協力関係を築けるように努めている。	市の担当窓口に行く機会は少なく、運営推進会議の場での意見交換が多い。事業所内や利用者の生活支援での不明な点等は、直ぐに電話での相談に応じて貰える関係が作られている。現在ではコロナ禍の為、電話やメール連絡で対応を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束に当たる行為なのか職員間で確認しあい、日々の介護に当たっている。	現在日々の支援に於いて、身体拘束に当たる行為は行っていないが、内容、弊害等を日々振り返りながら話し合い、抑圧感の無い暮らしを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、利用者様の自宅での虐待を見過ごさない様に、家族様との会話や行動・身体状況を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署内研修を行い、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、重要事項内容について説明を行い、疑問点や不安な点は無いが、一つ一つ確認を行いながら納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉を大切に考え、できるだけ要望に沿うように、会議で検討し運営に反映している。	毎月発行の「まごころ新聞」と利用者の健康状態や日常の様子を家族に送付している。現在コロナ禍で面会禁止であり、家族とは以前の様な対話が減ってきている。面会可能な時期を迎えれば、要望や意見が聴ける場面作りを考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で職員の意見や理解を聞いて確認している。	職員と管理者の個人面談(考課)は年2回実施し、意見や要望を聞く機会を設けている。管理者がレク担当を決めた中で、職員のアイデアや希望を聞き取り、レクリエーション企画が盛り上がってきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回必ず理事長面談があり、各職員の考えや思いを聞き出し、考課している。また管理者とは都度話ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を実践し、向上につなげている。外部研修にも参加する機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は活発に行っていたが、コロナ禍の為、ここ数ヶ月は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の要望をお聞きし、プランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話聞き、良好な関係作りに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス事業者と連携し、情報の共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者に教えて頂いたり相談することで、暮らしを共にする者同士としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への受診等、家族と協力しながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス感染予防の為、面会は中止しているが、それ以前は友人が面会に来られることもあった。	馴染みの友人知人はコロナ禍で、面会禁止となっていたり、行き付けの理美容室や訪問美容も中止となり、検討中である。7月よりアイパッド導入で、回想法による「好きな歌手や動画」を取り入れて試行中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見のいい人が隣に来るような席を配慮しており、困っている人がいると職員を呼んで下さる人など利用者同士の支え合いもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は無いが、退所された方の家族が様子を報告に来られる事もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から、把握に努めている。コミュニケーションが難しい方は、何が今一番必要なのかを考えている。	利用者の言葉にしづらい日常の思いや意向は、その都度その場で本人の言動から感じ取って、活かせる様に支援している。本人が言えない事も、家族からの意見を参考に把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からお話を伺い、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の様子を把握し、生活記録や個人記録に記録し、職員間で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に状態に変化が無ければ、会議にて3ヶ月に一度モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月の見直しに合わせて、サービス担当者会議、モニタリングを職員全員で行い、ケアマネジャーが介護計画を作成している。家族への計画書の説明や新たな要望の聴き取りは、ケアマネジャーが行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、職員間で情報を共有しながら、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時必要な事を見極めて、時には家族の協力を得ながら対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、利用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望される医療機関や受診体制を優先し、安心して適切な医療が受けられるように対応している。	本人と家族希望の1名以外は、協力医をかかりつけ医としている。通院は家族の付き添いで受診している。夜間や緊急時は、協力医と看護師の24時間対応が可能である。事業所の看護師で日常の健康管理が行われ、安心の医療支援ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることがあれば看護師に相談し、処置や受診等の指示を受けている。24時間のオンコール体制で、緊急時は夜間でも相談する事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、サマリー等で情報を共有することで安心して治療にあたって頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月のカンファレンスで、何かあればその都度話し合いを行なっている。終末期になれば、それに対応したプランに変更している。	ここ数年は看取り支援の該当者は無いが、事業所の「看取り方針」としては、現在の医療連携体制の中で、利用者が苦痛の無い終末期を迎えられるよう、事業所の対応出来る最大の支援が出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習やAEDの使用研修などを行い、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、日中・夜間を想定し行なっている。利用者様と一緒に、想定した避難訓練を行い、日頃の備えに対する意識を高めている。	恒例の年2回自治会参加の防災訓練は、コロナ禍の影響で実施出来ていないが、本年11月初旬に事業所独自の訓練予定がある。	事業所開設当初設置された「非常持出袋」が準備されているが、中身の定期的な点検見直しを行い、非常時に役立つようにされること、また備蓄品についても、現状の保管品に加えて、災害時の必需品を備蓄されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人を尊重した言葉使いや接し方をして いる。プライバシーを意識した対応を心掛 けている。	名前の呼び方は○○さんで統一している。居室の 入口にカーテンが設置され、個人のプライベート 空間として、本人の尊厳・邪魔をしないように声掛 けや配慮をし、利用者其々の個人に合わせた接し 方を心得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方でも、二者選択で自己 決定をして頂いたり、会話の中から希望を 聞き出し実現できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等は順番に行っている為、職員の都合 を優先させて頂いているが、それ以外の時 間はお好きなこと(塗り絵やパズルなど)をし て頂けるよう、その方にあった支援を行なっ ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	定期的な整容以外でも、衣服が汚れればす ぐ交換し、さっぱりと心地よく過ごして頂ける よう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	入居者様の出来る範囲で、食事の盛り付け や後片付けを手伝ってもらっている。	本年5月より、業者からの御菜冷凍品を湯煎解凍 する食事提供に変更された。御飯と汁物作りは事 業所で行なっている。盛り付けや食器洗いは、利 用者も参加している。先日の敬老会には、お寿司 を取って大盛況であった。誕生会では職員手作り ケーキが登場し、利用者の期待と楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	個々の状態を把握し、生活記録に残すこと で健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後に、自立または介助にて口腔ケアを 行なっている。週2回、夕食後に義歯の消毒 も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、トイレ誘導やパッド交換を行なっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を基本としている。布下着使用で自立者が4名で、排泄習慣が維持されるよう支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂って頂いたり、時には腹部マッサージを行う事で、個々に応じた支援を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴して頂けるように考え、個人ごのこだわりを把握し、気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	ひとり週2回午前中の中の入浴で、日曜日も行なっている。入浴を拒む方も声掛けで入られるが、入ると気分良くなり長湯に成りがちなので、程よく楽しい入浴を支援している。水虫の方には入浴日以外にも、足浴と薬塗布を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の希望や様子を見ながら、声かけや居室への誘導を行なっている。気持ちよく休んで頂けるよう空調にも気を付けている。日中も夜間に影響が出ない程度休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、職員間でダブルチェックを行い、入居者が飲み込む迄確認している。変更に関しては看護職員と連携し、状態の変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事への参加や、コロナウイルスの流行前までは、気分転換に外食や買い物にも出かけていた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルスの流行により外出できない為、ホームでの玄関先で外気浴を楽しまれた。	今年の夏は猛暑で屋外に出られなかったが、涼しい時期がくれば、玄関先や広い駐車場の散歩も計画している。室内からでも、広い吹き抜けの中庭からは青空が仰げて、外の風を感じて貰う事が出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は事務所で保管しており、必要時に職員と一緒に買い物をしていただいたが、本人が直接お金を持って買物する事は無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望にて職員が代行して電話を掛けたり、はがきを書いてもらった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるように清潔に配慮し、季節の壁面や写真等で、居心地よく過ごせるようにしている。	広々としたリビング兼食堂は、利用者と職員が何時もゆったりと安心して集い合える、居心地良い共有空間である。リビング中央には空が仰げる吹き抜けの中庭があり、生活感や季節感を感じ、二つのユニットをお互いに行き来しながら交流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーや椅子の移動により、思い思いに楽しく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスやテレビなど持参して頂き、自宅のように居心地よく過ごせるように工夫している。また写真や作品などを飾る事で、楽しい気持ちで過ごせるように支援している。	利用者の持ち込み品が少ないシンプルな部屋もあるが、落ち着いて過ごせる工夫等を家族とも相談している。お気に入りの手作り作品、馴染みの品、写真等の配置など、意欲的に個性豊かな居室作りをされる利用者への支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂に名札を掛けて理解して頂く事で、自ら行ける様に支援している。また安全に生活が送れるように、家具の配置や車椅子の配置などに配慮し、安全な環境づくりを心掛けている。		